

さいたま市公民館運営審議会第8回会議 議事録

1 開催日時

令和5年7月25日（火） 午前10時00分から午前11時30分まで

2 開催場所

生涯学習総合センター 10階 多目的ホール

3 出席者

〈委員：9名〉

- ① 山中 冴子 委員長
- ② 加藤 美幸 副委員長
- ③ 石田 玲子 委員
- ④ 加藤 恒 委員
- ⑤ 栗原 保 委員
- ⑥ 小林 玲子 委員
- ⑦ 白石 徳一郎 委員
- ⑧ 富田 敏弘 委員
- ⑨ 寺田 道子 委員

〈拠点公民館職員：9名〉

- | | | |
|-------|----------|--------|
| ① 西 区 | 指扇公民館長 | 内ヶ嶋 直哉 |
| ② 北 区 | 大砂土公民館長 | 武笠 充裕 |
| ③ 大宮区 | 桜木公民館長 | 茂木 深雪 |
| ④ 中央区 | 鈴谷公民館長 | 井出 浩史 |
| ⑤ 桜 区 | 田島公民館長 | 掛川 雅世 |
| ⑥ 浦和区 | 岸町公民館長 | 秦 利明 |
| ⑦ 南 区 | 文蔵公民館長 | 石関 達 |
| ⑧ 緑 区 | 大古里公民館長 | 春日 徹也 |
| ⑨ 岩槻区 | 岩槻本丸公民館長 | 青木 文彦 |

〈事務局：8名〉

生涯学習総合センター

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 館長 | 岸 聖一 |
| ② 参事兼副館長 | 中村 和哉 |
| ③ 主幹兼事業・企画係長 | 野口 みずほ |
| ④ 事業・企画係主査 | 三井 響子 |
| ⑤ 事業・企画係主査 | 曾根 啓佑 |
| ⑥ 事業・企画係主事 | 小暮 裕貴 |
| ⑦ 事業・企画係社会教育指導員 | 松本 みはる |
| ⑧ 事業・企画係社会教育指導員 | 成尾 千里 |

4 欠席者名

〈委員：3名〉

- ① 大塚 晶子 委員
- ② 島田 正次 委員
- ③ 丹 能成 委員

〈拠点館長：1名〉

- ① 大砂土東公民館長 岩井 由起子

5 議題等

- ・「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に向けた公民館事業のあり方について」の答申（素案）について

6 配布資料

- (1) さいたま市公民館運営審議会第8回会議次第
- (2) さいたま市公民館運営審議会第8回会議名簿
- (3) さいたま市公民館運営審議会第8回会議席次表
- (4) さいたま市公民館運営審議会第7回会議議事録
- (5) さいたま市公民館運営審議会 デジタルトランスフォーメーション(DX) 推進に向けた公民館事業のあり方について 答申（素案）【資料1】

7 公開・非公開の別

公開

8 傍聴者の数

0名

9 会議

会議は委員の半数以上が出席しているので、成立。

10 審議内容

冒頭、富田敏弘委員の委嘱及び自己紹介を行った。
引き続き、事務局より前回会議録について説明を行った。

- ・議題 「デジタルトランスフォーメーション（DX）推進に向けた公民館事業のあり方について」の答申（素案）について事務局より説明した。

<p>山中委員長</p>	<p>「はじめに」</p> <p>「住民同士が対面によりつながりが持てる機会の充実が求められている」とあるが、その根拠がわからない。学びが豊かになるとか、足を運ぶことが難しい状況にある方に学びの保障をするなど、公民館の原点を踏まえた本質的な記載が必要だと感じる。</p> <p>2「さいたま市の動向と公民館における取組等」</p> <p>(1)「さいたま市を取り巻く現状と課題」の「課題」がない。(2)「さいたま市におけるDX推進にかかる取組」と(3)「公民館におけるDX推進にかかる取組」の繋がりが弱い。</p> <p>3「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」</p> <p>「期待」はわかるが「課題」がどこにあるかわからない。</p> <p>4「デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に向けた公民館事業のあり方について」</p> <p>「あり方」はどこまで言ってよいのか。既に着手していることと更にやっていくことの整合性が気になる。「おわりに」で「改めて認識することができた」で終わってよいのか。</p>
<p>石田委員</p>	<p>さいたま市の取組の現状と今後を明確に示す必要がある。</p> <p>言いたい部分にグレーライン等を引くと見やすくなる。</p>
<p>寺田委員</p>	<p>10頁21行目「～のような」が二度続く部分は修正した方がよい。</p>
<p>山中委員長</p>	<p>3「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」</p> <p>8頁3行目の「プラスして」や4行目の「既存の取組を生かしつつ、ICT活用の機会をふやす」の内容が曖昧である。6行目の「以上を踏まえ」以降は、国の動向やグループワーク以外の要素も入っており、話のスケールが大きくなったり小さくなったり、本質の問題と書き方の問題が混在している。</p> <p>4「デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に向けた公民館事業の在り方について」</p> <p>10頁3行目「地域に根付いた強み」や8行目「複数の視点から様々な講座」について、最終行の「リアルとデジタルの融合」へ落とし込むための理屈付けや読み手の立場に立った具体的な説明が必要である。</p>
<p>寺田委員</p>	<p>13頁「公民館事業アンケートの結果について（令和4年度報告）」</p> <p>「Ⅲ アンケートの結果」の中で、「問1」と「(1)」の表記が混在していてわかりにくいので修正した方がよい。</p>

事務局	「(1)」の表記に統一する。
加藤(美)委員	<p>2「さいたま市の動向と公民館における取組等」 「(1) さいたま市を取り巻く現状」でよいのではないかと。「(2)さいたま市におけるDX推進にかかる取組(教育委員会関連事項抜粋)」は「さいたま市教育委員会における」の表題にした方がよいのではないかと。内容も表だけでなく、背景がほしい。5頁のグラフは母数を加えるとよい。</p> <p>3「公民館の役割及びDX推進に対する期待と課題」 グループワークの部分は課題ではなくて提案として整理し、まとめるのがよいのではないかと。8頁他の「ウェルビーイング」という耳慣れない言葉には注釈が必要だと思う。8頁の中に「また」が二度続く箇所があるので修正が必要である。</p> <p>4「デジタルトランスフォーメーション(DX)推進に向けた公民館事業のあり方について」 10頁3行目「身近な場所でサポート」、8行目「様々な講座を実施」、21行目「つながりづくりのためのスマホ活用講座」とは、公民館で具体的に何をするのか説明を加えないとイメージが湧かず、職員が活用しにくいのではないかと。根本的な問題になるが、Wi-Fiの環境をもっと迅速に整えていくことが本当のDX推進に繋がっていくのではないかと考える。</p>
栗原委員	<p>2「さいたま市の動向と公民館における取組等」 「(2)さいたま市におけるDX推進に係る取組(教育委員会関連事項抜粋)」は、教育委員会でこの三つを進めているということを明示するために、表題に「教育委員会」という文言を入れた方がよい。</p> <p>表の中に「通信業者との連携」、「3社と協定を締結し、連携して」と書いてあるが、通信業者を紹介してくれたり、講座を実施してくれたりするという意味か。</p> <p>「おわりに」 来年度の事業計画に間に合うよう、最後に「公運審の意見を生かすことを望む」の文言を加えるとよい。</p>
事務局	協定は市長部局で締結したものであり、公民館が直接対応したり、紹介したりするというよりも、公民館に通信業者や該当の部署から情報提供がされている状況である。
栗原委員	市民からの相談に対して公民館が直接情報提供したり、講座受講者をネットワーク化できたりするとよい。
山中委員長	4頁の(2)は、教育委員会と市長部局のつながりを意識して文章化した方がよい。

	<p>公民館でスマホ講座をやったり、ICT リーダの育成を行ったりしているが、ネットワークづくりとしてこれから期待されるものがあり、完成形ではないということは「課題」のひとつとして挙げるができる。</p>
小林委員	<p>全体的に具体性に欠ける。</p> <p>「はじめに」の「住民同士が対面により繋がりを持てる機会の充実が求められていることがうかがえる」と、8 頁の「オンラインでの学習機会を増やすことと、住民同士が対面によりつながりを持てる機会を増やすことの双方が求められる」が重複した内容になっている。</p> <p>「DX」や「LINE」等、アルファベット表記の半角と全角が混在しているので統一した方がよい。</p>
加藤（美）委員	<p>2「さいたま市の動向と公民館における取組等」</p> <p>「(2)さいたま市における DX 推進にかかる取組（教育委員会関連事項抜粋）」は教育委員会の取組ではないので、教育委員会の取組を取り上げたり関連を明確にするとよい。</p> <p>「(3) 公民館における DX 推進にかかる取組」に、デジタル改革推進部との共催事業で ICT リーダを講師としたスマホ講座と e 公民館、拠点公民館への Wi-Fi の導入だけしか書いていないが、実際はデジタルデバイド解消の講座や、もっと発展的な講座も行っているはずである。</p> <p>【参考】部分の実績と e 公民館の囲みの実績は体裁を統一するとよい。実績に共催事業をとりあげるのであれば、通信業者との協定を活用した事業の実績もここに載せて、その事例が少なければ「課題」として書けるのではないか。ICT リーダの活用も、令和 4～5 年で実施した館の数は変わらず、回数は少し増えてはいるが、更なる推進を求めれば「課題」と捉えることができるのではないか。e 公民館もコンテンツ数は微増だが、コンテンツが充実しているという印象がない。公民館の声を聞けば、e 公民館の今後の方向性や課題を掘り起こすことができるのではないか。</p>
石田委員	<p>4 頁の(2)と(3)は、表形式にしなくてもよい。「通信業者との連携」は連携した年を書いているのか、スマホ講座を実施した月を書いているのかわかりにくい。「連携して」「協定を締結して」という言葉は深い意味を持つが、実際はスマホの使い方講座であり、もっと突き詰めなければいけない課題や取組でないなら表にまとめなくても伝えられるのではないか。</p>
加藤（恒）委員	<p>3「公民館の役割及び DX 推進に対する期待と課題」</p> <p>この部分だけトーンが違っている。ここは抜粋した形に整理して、グループワークでの具体的な発言は資料として付けるのが適当ではないか。具体的に残すことで事業への反映が期待できる。</p>

白石委員	グループワークの部分は資料編に移すことに賛成。
富田委員	資料全体がわかりにくい。誰向けの資料なのか、表現をもっと変えないと伝わらない。 さいたま市公共施設予約システムが使いづらいので改善できないか。
山中委員長	ご意見、ご指摘をまとめると、「課題」に関する記載を明確にする必要がある。文字や言い回しの体裁を整える。 4頁の(2)と(3)は体裁を整え、公民館でやっていることをもっと掘り起こして厚みを出す。 5頁のグラフの示し方を修正する。 6頁以降のグループワーク部分は抜粋して整理し、具体的な発言については資料編に移す。 8頁他の「ウェルビーイング」等の耳慣れない言葉には説明を加える。「つながりづくり」等の抽象的な表現について具体的な説明を加える。 9～10頁以降の「あり方」については、実際に公民館職員が、この答申を事業に生かせるようにという方向で課題と提案を示す。 10頁15行目「申込等の手続き」という部分は審議会でも意見が出ていたこともあり、システムの見直しについては触れてもよいと考える。 グループワークでの審議を反映させ「おわりに」に向かって深まりのある展開にする。 「はじめに」と「おわりに」で整合性がとれるように全体を見直す。

11 その他

次回（第9回）は、令和5年10月10日（第2火曜日）、会場は生涯学習総合センター10階多目的ホールで開催予定であることを確認した。

12 閉会